

特定非営利活動法人 地球緑化センター

特定非営利活動法人 地球緑化センターは、緑のボランティアを育て、その活動を応援することを目的として、平成5年に設立された団体です。

国有林や公有林における森林ボランティア「山と緑の協力隊」をはじめ、農山村を対象とした地域貢献活動「緑のふるさと協力隊」、子どもたちを対象とした環境教育を行う「緑の学校」等の活動を行っています。

「緑、人を育む」を軸にしたプログラムづくりを

地球緑化センターは「緑、人を育む」をテーマに活動に取り組んでいます。

これは、社会のために何かしら役に立ちたい、行動したいという思いを持つ市民が、活躍できる場作りを目指す、という取組姿勢を表しています。この考え方に基づいて、地球緑化センターは、「緑・自然・環境」という身近な切り口で幅広い活動を展開しています。

山と緑の協力隊

山と緑の協力隊は、国有林や地方自治体等が管理する公有林などをフィールドとした市民参加の森づくり活動です。平成8年に長野県の国有林・赤沢自然休養林で始まったのを皮切りに活動拠点を広げ、これまでに東京神奈川森林管理署や静岡森林管理署、また全国各地の公有林と連携しながら、活動を進めてきました。現在は赤沢のほか、神奈川県湘南海岸林（県有林）、東京都の三宅島（国有林）でも森林ボランティア活動を行っています。

また、山と緑の協力隊でボランティアを経験した参加者がリーダーとなって活動する「森林・竹林・里山を整備する仲間の会」も年々輪を広げていて、現在は全国14ヶ所で地域密着型の活動を展開しています。

緑のふるさと協力隊

緑のふるさと協力隊は、農山村に興味を持つ若者が、地域再生に取り組む地方自治体に1年間住民として暮らしながら、地域に密着した活動を行うプログラムです。農山村に派遣された若者は、地元の住民と同じ土地で生活しながら、農作業や森林整備、地域行事への参加など様々な分野の活動を通して、地域おこしを手伝います。より充実した活動にするために、地方自治体・隊員・地球緑化センターが年間を通して連携し、事業を作り上げていくのが特



緑に囲まれる週末(山と緑の協力隊)



今年度は33市町村に33名を派遣
(緑のふるさと協力隊)

特定非営利活動法人 地球緑化センター

- 所在地
東京都中央区八重洲2-7-4 清水ビル3階
- 主な活動内容
 - ①国内森林ボランティア「山と緑の協力隊」
 - ②一年間の農山村貢献活動「緑のふるさと協力隊」
 - ③児童・生徒への環境教育活動「緑の学校」
 - ④中国での植林活動「緑の親善大使」
- ホームページ
<http://www.n-gec.org>
- お問い合わせ
☎03-3241-6450



個人やグループ、行政・企業などを対象に多様な応援を行っています。



子どもたちを惹きつける紙芝居(緑の学校)



大学生が主導する森林教室(山と緑の協力隊)



現地の住民と一緒に植林(緑の親善大使)



「生きる」を実感する一年間
(緑のふるさと協力隊)

将来に向けて

国有林からスタートした森林ボランティアは、森林管理署の方々に指導を頂いて参加者が経験を重ね、今では各地で主体的に活動するようになりました。また、その活動は近年、大学生に受け継がれ、積極的に関わることになっています。森林での体験や農山村での生活を通して、参加者たちはその後の生き方の選択肢が広がっていくと感じています。今後も多くの若者や幅広い市民と森林や農山村をつなげていけるよう努めていきます。

緑の親善大使

緑の親善大使は、中国の砂漠化が進んでいる地域を訪れ、地元人民政府や住民とともに植林活動が続けるプログラムです。現在は、内蒙古自治区、長江上流の重慶市、北京北方の豊寧県の3か所で5〜7日間程度の日程で活動を行っています。植林活動や砂漠の植生などを学ぶ砂漠教室を通じて現地住民や学生との交流を重ね、人的交流と環境活動への理解を深めています。

緑の学校

緑の学校は、次世代を担う子どもたちにもっと身近に緑を感じてほしいとの想いを込めた活動です。小学生を対象とした森づくり体験や紙芝居の上演、森林教室などの出前授業を実施していて、地球温暖化の危機を森の妖怪「天狗のてんじいさん」「河童のかっくん」と、都市の怪獣「ガスラー」の戦いとして描いた地球緑化センター監修の紙芝居「ガスラー」の上演などを行っています。

また、平成19年から開催されていた「森カップ・緑の文化祭」では、森をテーマにした紙芝居や歌の歌詞を募集して文化祭を開催、広く文化的な側面から森をふれあう機会を提供しています。また、紙芝居の貸し出しや地方から修学旅行などで東京を訪れる中学生を対象とした訪問学習なども行われています。

色です。

特別な技術や経験を持たない若者にとって、農山村の人々とふれあいながら取り組む活動は自分を客観的に見つめ直し、新しい価値観や人生観を得る機会になっています。

また受入側の農山村にとっても、担い手のいなくなった産業や祭りを盛り上げようとする若者の姿は地域の魅力を掘り起こす刺激となり、若者たちの持つアイデアやエネルギーは地域再生の原動力となっています。

平成6年度の第一期からこれまでの21年間、緑のふるさと協力隊には約700人の若者が参加し、一年間の活動後、その約4割が農山村に定住する選択をしています。